

令和3年度 1年「総合的な探究の時間」

3月17日(木)、湯沢市協働事業推進課主催の「高校生による『市長への提言』事業」に、本校1年生の探究班3班が発表者として参加してきました。

各班の発表テーマと概要については以下の通りです。

班	テーマ(仮説)	概要
1-a	湯沢市の保育サービスをさらに発展させ、行っている保育サービスをもっと知ってもらうことで、湯沢市の少子化対策に繋がるのではないかと	湯沢市の現在の保育施策と、他の地域の保育施策の比較、また、湯沢高校1年生の保護者に保育施策の認知度アンケートを取り、子育て支援の広報をするパンフレットを作成した。そして、湯沢市の金銭面の支援の充実、湯沢市に行っている保育施策を活用してもらうための広報を提案する。
3-a	災害に対する意識調査を実施して、意識が足りない部分を明確にし、私達はその部分を市民に呼びかけることで、意識が向上し、被害の軽減につながるのではないかと	東日本大震災による死者では、30歳未満の若い人の死者が少なく、年齢が上がるにつれて増えている。(東日本大震災の死者の資料を用いたのは、秋田県内で多くの死者が発生するような災害が起きていないから)このことから、若い人は素早く避難できるため死者が少ないと考察した。そこで、小・中・高校生が災害に対する知識を持ち、高齢者など周りの人に避難を呼びかけたり、避難を手伝ったりすることで、被害にあう人が減らせるのではないかと考え、小・中・高校生向けのポスターやマニュアルを作成した。
6-b	湯沢市に住む高齢者のために地域で交流する機会を設けると孤立が解消され、地域の意識を高めることができるのではないかと	湯沢市での交流の場の現状から、どのような交流の場が高齢者にとってより良いのか調べたいと思い冬休み中に稲川のスーパー内にある交流の場でお話を伺った。また、他県の孤立する高齢者に向けた取り組みを調べた。そして、湯沢での高齢者の見回り活動+交流の場の宣伝で、より良い環境の交流の場について知ってもらい、実際に利用する人を増やそうと市に提案する。

発表に対して、議員の方や市役所の職員の方、市長さんから講評をいただきました。

1-a班に対しては、アンケートの調査対象を広げることの提案もいただきましたが、財源として企業版ふるさと納税を活用することや、必要な時期に必要な内容について

ポイントを絞って載せるパンフレットの案については、ぜひ活用したいとお言葉をいただきました。

3-a班については、防災の意識のアンケートとして、「なぜ避難の準備をしないのか」という質問をすることで、「意識」の部分の検証がより明確になったのではないかとアドバイスや、湯沢市で起こりうる土砂災害についても取り上げてはどうかというアドバイスをいただきました。また、小学生のクイズ、中学生のポスター、高校生の防災マニュアルと、年齢によって段階的をふんだ防災力を身につけさせる点がよいとお言葉もいただきました。

6-b班については、高齢者の見守り活動については民間の団体の活動や、交流スペースについても介護予防教室などが実施されているが、それをどう知ってもらえるかが重要で、「地域活動情報隊」というアイデアはよいというお言葉をいただきました。また、見守り活動に高校生も参加したいという意欲についても評価していただきました。

これで一年間の探究活動は終了となりますが、「市長への提言」をゴールと設定してきて、市の方々に活用したいといったお言葉をいただけたことは非常に嬉しく感じました。また、市の課題について調べたり考えたりする中で、湯沢市の魅力を再発見できたとも感じています。これからは、私たち高校生が湯沢市の魅力についても積極的に発信していきたいと思えます。

